

令和元年度第2回災害医療対策部会議事概要

日時：令和2年2月26日（水）

19：00～20：30

場所：吉田山206会議室

部会長の選出について

委員の互選により伊佐地委員が部会長に選出される

【議題】

（1）第7次三重県医療計画における災害医療対策の進捗について

委員 令和3年度に東海地方で大規模地震時医療活動訓練が実施される予定と
いうことであるが、その際、将来の北勢地域へのSCU候補地の整備も見
据えて訓練を企画してもらいたい。

事務局 北勢地域のSCU候補地は従前から課題である。現在は中勢地域の県立
看護大学の資機材整備など体制整備を優先しているが、令和3年度の訓練
では、北勢地域のSCU候補地の整備も踏まえて三重DMATと検討して
いきたい。

委員 南海トラフ地震が発生した際、内陸部の自治体は沿岸部の住民の広域避
難を受け入れることになるが、多数の避難者への避難所での医療の提供が
課題である。どのように検討しているのか。

事務局 保健所単位で地域の関係機関により災害時の保健・医療体制の協議を行
う地域災害保健医療対策会議において、地域での受け入れ体制を検討する
こととしている。

委員 三重県医師会は、歯科医師会、薬剤師会、看護協会と3月に災害時の連
携のため協定を締結する。今後、合同で勉強会等を行いたいと思うので県
も協力してもらいたい。

（2）災害拠点病院の指定について

委員 衛星電話については屋上に固定アンテナを設置しないと現実的には使
用が難しいので、今後検討してもらいたい。

[桑名市総合医療センターの災害拠点病院指定について、全会一致で承認]

（3）三重DMAT派遣要請の考え方（案）について

委員 局所災害時にはDMAT派遣だけでなく、ドクターヘリやJMATの活
用なども考えられるが、他の選択肢による医療の提供も可能か。

事務局 今回はDMAT派遣を切り口として考え方をまとめたので、DMATに
ついてのみ記載しているが、実際はもっとも適切な方法で医療を提供する
ことになる。

(4) 災害時小児周産期リエゾンについて

委員 災害医療コーディネーターは保健医療調整本部への配置に加えて、地域（保健所）にも配置されている。リエゾンは地域に配置しないのか。

事務局 国が示した体制モデルでは、リエゾンは本部にだけ配置することになっている。現状では、本県でも本部にのみ配置し本部の体制をしっかりと構築していく。将来的には、リエゾンの委嘱人数や地域におけるニーズ等も踏まえて、検討していきたい。

(5) B C Pの考え方に基づく病院災害対応マニュアルの整備について

委員 B C Pが机上の空論に近いものとなっている。

南海トラフ地震を想定すると、1つの病院のB C Pでは収まらない。地域医療のB C Pのなかで各病院のB C Pを考える必要がある。

事務局 まずは病院にB C Pを策定してもらい、研修・教育・訓練により見直しを行うB C M体制を病院に構築してもらうことを主眼において研修をしている。

南海トラフ地震を想定すると1つの病院による点の対応では意味がないと考えているので、地域別の研修会を開催することにした。

委員 グループワークでそれぞれの病院の状況を話し合っ、地域全体のなかで自分の病院の役割を考えてもらっており、効果的な研修である。

委員 伊賀や東紀州から研修が始まっているが、スピード感をもって研修を行ってほしい。